

島根県インフルエンザ防疫対策実施要領

(改正：令和3年10月25日付け感第512号)

インフルエンザの流行を早期に発見するとともに、流行状況を把握し、防疫対策を迅速かつ的確に実施するため、保健所設置中核市と緊密な相互の連携を図りつつ以下に定める各項の実施を行う。

1 情報収集網の強化

流行の早期発見、及び流行状況の把握のため、以下のとおり対応する。

- (1) 保健所は、郡・市医師会、医療機関等と連携を密にし、インフルエンザ〔インフルエンザ様疾患を含む〕の患者〕（以下、「患者」という。）の発生状況を把握する。
- (2) 保健所は、管内の幼稚園及び学校（以下、「学校等」という。）並びに保育所、介護・老人福祉関係施設及び障がい者施設等（以下、「施設等」という。）での患者の発生及び、集団発生事例の報告が迅速に受けられるよう、情報網を強化しておく。
- (3) 保健所は、以下により管内の学校等及び施設等での患者の発生及び集団発生を把握する。

①患者の報告について

- ・「学校等欠席者・感染症情報システム」（以下、「システム」という。）を導入している学校等及び保育所においてはシステム上で確認を行う。
- ・システムを利用することができない管内の学校等において患者発生があれば、その状況について参考様式1（学校：出席停止用）により報告を受ける。

②集団発生の報告について

医療機関等、学校・施設等以外から集団発生の連絡を受けた場合、関係機関へ報告する。

システムを利用することができない管内の施設等において患者発生があれば、その状況について様式1（施設用）により報告を受ける。

学校等における学級閉鎖、学年閉鎖及び学校閉鎖の措置報告については、別途「島根県インフルエンザ様疾患による臨時休業（学校、幼稚園）報告要領」に定めることとする。

【参考】 関係通知等

学 校	学校保健安全法第19条（出席停止）及び第18条（保健所との連絡）
施 設 等	「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成17年2月22日付け健感発第0222002号ほか）による患者発生時の報告

2 流行監視の強化

保健所は、防疫対策を的確に実施するため、感染症発生動向調査等によるインフルエンザの流行状況を常に監視する。

また、保健所は、松江市を除く学校・施設等で集団発生があり、時期的および地域的な発生状況等から疫学的調査が必要であると考えられる場合は、発生状況の調査を行い、まん延防止を図る。

特に、非流行期〔感染症発生動向調査の島根県のインフルエンザ一定点あたりの報告数(少数点第2位切り捨て数値、以下「定点あたりの報告数」という。)が1.0以下〕において、当該保健所圏域の定点あたりの報告数が1.0以下である場合は、検体を医療機関、学校・施設等の協力を得た上で確保し、ウイルス学的検査(以下、「検査」という。)を行う。

- (1) 保健所は、当該学校・施設等の長や嘱託医等と十分協議したうえで、発生状況について詳細を把握する。
- (2) 検査を実施する場合には、保健所は、感染症対策室及び保健環境科学研究所と十分連携を図り、関係機関の協力のもと、患者本人やその保護者等へ十分な説明を行う。
- (3) 検体の採取は、インフルエンザ検体採取マニュアル(別紙)により実施する。
なお、保健所は、様式2(感染症発生動向調査事業実施要綱 別記様式)により被検者の病状等について調査を行う。
- (4) 検体の検査は保健環境科学研究所で実施するものとし、保健所は様式3により保健環境科学研究所及び感染症対策室へ検査依頼を行う。
なお、保健環境科学研究所へは、検体に様式2及び様式3を添えて提出する。
- (5) 保健環境科学研究所は、検査結果を感染症対策室及び保健所へ報告するものとし、保健所は、検体の採取を行った医師へその結果を通知する。

3 防疫措置の強化

保健所は、市町村、教育委員会その他の関係機関と連携を図りながら、次について実施する。

- (1) 学校における学級、学年閉鎖又は臨時休校等の措置が適切に実施されるよう指導する。
- (2) 乳幼児、高齢者、病弱者及び妊産婦に対し、予防及び医療機関への早期受診等の指導を強化する。
- (3) 適切な予防接種を推進する。

4 予防教育の推進

防疫対策を円滑に実施するためには、一般住民の予防及び治療に関する正しい知識と協力が必要であることから、保健所は、各市町村、郡・市医師会、学校・施設等、地区組織及び各種団体等の協力を求め、一般住民に対する予防教育を推進する。

特に、流行の増幅の場になりやすい、保育所、幼稚園、学校の児童、生徒及びその保護者に対する衛生教育に努める。

5 積極的な情報提供

感染症対策室は、県民が、県内のインフルエンザ発生状況などの情報が、できるだけ簡単に入手できることは、個々の感染予防の注意喚起となることから、積極的に次の情報提供を行う。

(1) ホームページの活用

島根県や島根県感染症情報センターのホームページを活用し、感染症発生動向調査で把握した流行状況を発信していく。

- ・ 島根県ホームページ（下記アドレス）

<https://www.pref.shimane.lg.jp/>

- ・ 感染症情報センターホームページ（下記アドレス）

<http://www1.pref.shimane.lg.jp/contents/kansen/index.html>

(2) 報道発表

① 感染症発生動向調査の定点あたりの報告数から把握した流行状況

流行開始 : 報告数が 1.0 を超えた場合

注意報発令 : 報告数が 10.0 を超えた場合

警報発令 : 報告数が 30.0 を超えた場合

警報解除 : 報告数が 10.0 を下回った場合

② 上記の他、報道発表を行うことで、地域での感染拡大防止に寄与すると判断した情報（例：地域での急速な感染拡大等）

6 関係施設（各施設を所管する関係各課）との連携

感染症対策室は、流行シーズンが始まる前に、各施設を所管する関係各課に対し、患者や集団発生の探知及び保健所への報告が、適切に行われるよう周知徹底を依頼する。

附 則（平成 14 年 12 月 2 日付け薬発第 256 号）

この要領は、平成 14 年 12 月 2 日から施行する。

附 則（平成 16 年 12 月 3 日付け薬第 1744 号）

この要領は、平成 16 年 12 月 3 日から施行する。

附 則（平成 17 年 12 月 7 日付け薬第 1671 号）

この要領は、平成 17 年 12 月 7 日から施行する。

附 則（平成 19 年 11 月 22 日付け薬第 1276 号）

この要領は、平成 19 年 11 月 22 日から施行する。

附 則（平成20年11月12日付け薬第1211号）

この要領は、平成20年11月12日から施行する。

附 則（平成21年7月29日付け薬第723号）

この要領は、平成21年7月29日から施行する。

附 則（平成21年11月25日付け薬第1239号）

この要領は、平成21年11月25日から施行する。

附 則（平成22年11月26日付け薬第1233号）

この要領は、平成22年11月26日から施行する。

附 則（平成23年11月25日付け薬第1331号）

この要領は、平成23年11月25日から施行する。

附 則（平成26年8月22日付け薬第901号）

この要領は、平成26年8月22日から施行する。

附 則（平成29年11月28日付け薬第1124号）

この要領は、平成29年11月28日から施行する。

附 則（平成30年9月12日付け薬第888号）

この要領は、平成30年9月12日から施行する。

附 則（令和3年10月25日付け感第512号）

この要領は、令和3年10月25日から施行する。

別紙

インフルエンザ検体採取マニュアル

1 検体採取

- (1) 保健所は検査の実施について、感染症対策室及び保健環境科学研究所と十分連携を図り、学校・施設等あるいは当該患者が受診する可能性のある医療機関に十分な説明を行い、患者5から10名程度の検体採取について協力を依頼する。
- (2) 検体の採取は、保健所が検体採取を依頼し、これを承諾した医療機関（以下、「協力医療機関」という。）の医師が行う。
- (3) 協力医療機関の医師は、検体の採取にあたって、患者本人やその保護者等のインフォームドコンセントを得る。
- (4) 検査器材は保健環境科学研究所が保健所に配付する輸送培地とする。
なお、保健所は、協力医療機関において器材等の準備が必要な場合は対応する。
また、その他検査器材は必要に応じて保健環境科学研究所から送付する。

2 ウイルス学的検査

- (1) ウイルス学的検査は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する施行規則第8条第5項の三号で定める標準作業書に基づき検査を行う。
- (2) 検体は、咽頭ぬぐい液又は鼻腔ぬぐい液とする。
- (3) 検体は、綿棒で患部全体を十分にぬぐい、その綿棒を保健環境科学研究所が配付した輸送培地にさし込んで先端部分を液に浸した状態で搬送する（柄は折り取る）。
注：迅速診断キットによる検査のために抽出処理を行った検体や抽出液は、ウイルス検査には適さないので、迅速診断用とは別に採取する必要がある。
- (4) 採取した検体は直ちに冷蔵（4℃）保存する。
注：インフルエンザウイルスは凍結融解によりウイルス粒子が壊れやすいため、数日中に検査する場合は凍結しない方がよい。
- (5) 検体の輸送は、容器の破損や検体遺漏等の事故がないよう注意して冷蔵状態で輸送する。貨物自動車運送事業者を利用して検体等を送付する場合には、令和2年4月14日付け健感発 0414 第6号「感染症発生動向調査事業等において検体等を送付する際の留意事項について」の別添を遵守し行うこと。

【保健所】あて

(FAX連絡欄)

※施設には保育所を含みます

(元号) 年 月 日

インフルエンザ様疾患発生報告 【施設用】

年 月 日 時時点の発生状況を報告します。

報告月日	施設名 所在地 (番地まで記入) 所属報告者 入・通所者数	発生範囲等	患者総数	主要症状	対策チェック表
	施設名 所在地 TEL: FAX: 報告者氏名 施設全体の入・通所者数 名 (内入所者 名)		↓発生範囲等の患者総数 名	↓発熱がある場合は、温度を記入する 発熱(~ °C) 咽頭痛 , 咳 , 頭痛, 関節痛 , 倦怠感 , 悪寒, 腹痛 , 下痢 , 嘔吐 , 吐気 その他 ()	↓同施設で2回以上報告は、「特記事項」欄に(再)の記載もする 1.施設内感染対策委員会の設置 有・無 2.入所者の健康状態把握の実施 有・無 3.入所者への一般的な予防対策の実施 有・無 4.施設職員への健康管理徹底 有・無 5.適切な医療の提供 有・無 6.感染拡大措置の実施 有・無 (集団活動の一時停止等) ○特記事項 ()

(記載方法等)

1. 「報告月日」欄には、保健所に報告した月日を記載する。
2. 「所属報告者」欄には、施設の報告者の名前を記載する。
3. 「所在地」欄には、番地まで記載する。
4. 「入所者」欄には、施設全体の入所者数を記載する。
5. 主要症状の「発熱」欄には必ず温度を記載する。
6. 同じ施設で2回以上報告があった場合、2回目以降は、「特記事項」欄に必ず(再)と記載する。

- 一般的な予防とは
- ・十分な栄養と休養をとる
- ・人混みをさける
- ・室内の乾燥をさける
- ・マスクの着用

※参考：市町村等社会福祉施設等主管部局及び保健所への報告

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」(平成17年2月22日付け健感発第0222002号ほか 厚生労働省健康局長ほか4局長連名通知)《抜粋》

- ア 同一の感染症若しくは食中毒による又はそれらによると疑われる死亡者又は重篤患者が1週間内に2名以上発生した場合
- イ 同一の感染症若しくは食中毒の患者又はそれらが疑われる者が10名以上又は全利用者の半数以上発生した場合
- ウ ア及びイに該当しない場合であっても、通常の発生動向を上回る感染症等の発生が疑われ、特に施設長が報告を必要と認めた場合

保健所コード

--	--	--

NESID検体ナンバー

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

保環研受付番号(検体提供者番号)

--	--	--

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票(病原体)

患 者	氏名
	性別 男 ・ 女
	年齢 歳 か月

定点医療機関の場合は該当するものを○で囲んでください
 ・インフルエンザ定点 ・小児科定点 ・眼科定点
 ・性感染症定点 ・基幹定点

[保健所等記載欄](主治医記載可)

発生の状況	・散発 ・集団発生 有の場合(保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、宿舎・寮、病院、老人ホーム[介護施設を含む]、福祉・養護施設、旅館・ホテル、飲食店、事業所、海外ツアー、国内ツアー、その他[])
	・地域流行 ・家族内発生(無、有)
最近の海外渡航歴	国名 期間 年 月 日 ~ 年 月 日
ワクチン接種歴	(無、有、不明) 最終接種年月日 年 月 日
	ワクチン名 (Lot No.)

[主治医等記載欄]

医療機関等名及び主治医等医師名(記載者)	
検体送付日	年 月 日 分離株(無、有、検査中)
診断名	
発病日	年 月 日
検採取日	年 月 日
査材料	・ふん便(腸内容物、直腸ぬぐい液) ・髄液 ・尿 ・吐物 ・喀痰 ・気管吸引液 ・穿刺液(腹水、胸水、関節液、その他[]) ・咽頭ぬぐい液 ・鼻腔ぬぐい液 ・結膜ぬぐい液(結膜擦過物、眼脂) ・皮膚病巣(水疱内容、痂皮、創傷) ・細胞診、生検、剖検材料(臓器) ・陰部尿道頸擦過物/分泌物 ・血液(全血、血清、血漿、抗凝固剤[]) ・その他()
臨床的	・無症状 ・胃腸炎(下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛) ・頭痛 ・発熱(最高 °C) ・角膜炎、結膜炎、角結膜炎 ・熱性けいれん ・関節痛(関節炎)、筋肉痛 ・髄膜炎、意識障害、麻痺(部位)、 ・口内炎 ・上気道炎(咽頭炎/痛、扁桃炎) 中枢神経系症状(脳炎、脳症、脊髄炎、 ・下気道炎(肺炎、気管支炎) その他[] ・水疱 ・発疹(丘疹、紅斑、バラ疹) ・循環器障害(心筋炎、心膜炎、心不全) ・出血傾向※全身性のもの ・黄疸 ・肝機能障害 ・リンパ節腫脹(部位)、唾液腺腫脹 ・腎機能障害(HUS、血尿、乏尿、蛋白尿、 浮腫(部位) ・ショック症状(低血圧、循環不全) ・尿路生殖器症状(膀胱炎、尿道炎、外陰炎、 ・その他の症状(上記以外の症状や臨床徴候) [インフルエンザキット A()・B()・未実施、メーカー名: 陰性・陽性・ 保留]
基礎疾患	
転帰	経過観察中、軽快、治癒、後遺症有り、死亡(原因)

[保健環境科学研究所記載欄]

記載者名	
抗体検出方法	(蛍光、IP、ELISA、CF、HI、PA、中和、イムノブロット、ゲル内沈降、凝集反応、その他[])
結果	()
検出年月日	
病原	検出方法 ・分離培養(培養細胞:細胞名[]) [陽性となった方法を人工培地、発育鶏卵、動物、その他[]) ○で囲んで下さい] ・抗原検出(蛍光、EIA、RPHA、LA、PA、IC[イムノクロマト]、その他[]) ・遺伝子検出 1.非増幅(ハイブリ、PAGE、その他[]) 2.増幅(PCR、PCR+ハイブリ、PCR+シーケンス、LAMP、その他[]) ・電顕 ・鏡検
検出病原体(群、型、亜型)	

[その他特記事項]

注1)主治医記載欄については、検体送付日において記載できる範囲で記載をお願いします。 注2)ワクチン接種歴については、当該疾患に係るものにつき記載して下さい。 注3)医療機関(民間検査所を含む)で病原体を分離した場合は、地方衛生研究所への分離株の送付をお願いします。

主治医等から保健環境科学研究所への連絡事項	
抗インフルエンザ薬投与(無・有:薬剤名 投与開始日 年 月 日 予防投与・治療投与)	

保健環境科学研究所長 様
感染症対策室長 様

〇〇保健所長

行政検査依頼書

下記のとおり検査をお願いします。

件名	インフルエンザ患者発生(疑い患者を含む)に係る検査					
検査項目	ウイルス検査	<input type="checkbox"/> 遺伝子検査 <input type="checkbox"/> ウイルス培養検査 <input type="checkbox"/> その他()				
検体番号	氏名	検体種類	年齢	採取年月日	発病日	特記事項 (投薬有無・投薬期間等)

患者発生状況:

※参考様式1（学校：出席停止用） ※幼稚園、小学校、中学校及び高等学校等報告用

【教育委員会】、【保健所】あて

(FAX連絡欄)

(元号) 年 月 日

出席停止報告

施設名 所在地（番地まで） 所属報告者氏名	発生範囲（注1）			（疑いを含む）診断名（注2）及び 主要症状	備考 （注3）
	↓学級・学年	在籍	患者（出席停止者）総数		
		名	名	診断名： 発熱（ ～ ℃） ， 咽頭痛 咳 ， 頭痛 ， 関節痛 ， 倦怠感 悪寒 ， 腹痛 ， 下痢 ， 嘔吐 ， 吐気 その他（ ）	
TEL： FAX：		名	名	診断名： 発熱（ ～ ℃） ， 咽頭痛 咳 ， 頭痛 ， 関節痛 ， 倦怠感 悪寒 ， 腹痛 ， 下痢 ， 嘔吐 ， 吐気 その他（ ）	
施設全体の在籍数（該当する人数を記入）					
通所（通学）者 名		名	名	診断名： 発熱（ ～ ℃） ， 咽頭痛 咳 ， 頭痛 ， 関節痛 ， 倦怠感 悪寒 ， 腹痛 ， 下痢 ， 嘔吐 ， 吐気 その他（ ）	
入所者数 名					

（記載方法等）

注1:「在籍」欄には、学級単位の場合、該当学級的人数、学年単位の場合は該当学年の人数を記載する。

注2:出席停止となった理由（感染症名等:例 インフルエンザ）を記載

注3:1学年が1学級の場合“1学年1学級”と「備考」欄に記載する。